

愛知県重症外傷センター（仮称）の検証結果及び今後の方向性について

本県では、令和5年1月23日から名古屋掖済会病院と愛知医科大学病院を重症外傷センター（仮称）試行病院とし、試行運用を開始している。

試行運用期間における治療実績等を検証するため、令和5年度に2度、検証会を開催した。

また、1年間の試行を踏まえた今後の方向性について、令和6年度に愛知県重症外傷センター（仮称）方向性検討会及び愛知県救急医療協議会で議論した。

1 愛知県重症外傷センター（仮称）の試行方法

(1) 試行病院

- ・名古屋掖済会病院、愛知医科大学病院

(2) 試行区域（以下の消防機関が管轄する地域）

- ・名古屋市：名古屋市消防局
- ・海部地区：津島市消防本部、愛西市消防本部、蟹江町消防本部、
海部東部消防組合消防本部、海部南部消防組合消防本部
- ・尾張東部地区：瀬戸市消防本部、尾張旭市消防本部、尾三消防本部

(3) 試行運用の搬送ルールの概要

- ・重症度・緊急度が高く生命に危険がある重症外傷患者について、各消防機関が直近の救命救急センター等に受入れを要請するが、当該医療機関が受入れ不能であった場合、試行病院に搬送する。

(4) 試行期間

- ・令和5年1月23日から

2 試行検証及び方向性検討状況

日付	内容
令和5年11月1日	○令和5年上半期検証会 ・令和5年1月～6月の症例を検証
令和6年3月6日	○令和5年下半期検証会 ・令和5年7月～12月の症例を検証
令和6年4月	○アンケート調査 ・重症外傷センター（仮称）の今後の方向性に関するアンケート ・関係医療機関、関係消防本部及び県消防保安課を対象
令和6年5月27日	○方向性検討会 ・アンケート結果報告 ・今後の方向性に関する検討
令和6年8月23日	○令和6年度第1回愛知県救急医療協議会 ・方向性検討会の報告 ・今後の方向性に関する検討

3 令和5年分の検証（括弧内はうち試行区域分）

(1) 令和5年上半期分

① 重症外傷搬送事例

・45例（20例）

⇒うち「試行運用の搬送ルール」に合致したもの：2例（2例）

⇒いずれも、予測生存率が95%以上で生存

② 重点検証

・予測生存率が50%以上であったが搬送後に死亡した4例（2例）を重点検証した。

⇒重点検証の4例について、防ぎえた死に該当するものは無かった。（1例情報少なく判断保留あり）

(2) 令和5年下半期分

① 重症外傷搬送事例

・70例（24例）

⇒うち「試行運用の搬送ルール」に合致したもの：3例（3例）

⇒予測生存率が50%以上であったが搬送後に死亡：1例

予測生存率が90%以上で生存：2例

② 重点検証

「試行区域内の試行病院搬送事例」、「試行区域内の搬送先複数照会事例」、「試行病院受入不可事例」、「予測生存率50%以上の死亡例」のいずれかに当たる13例（12例）を重点検証した。

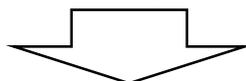
⇒「予測生存率50%以上の死亡例」の3例（2例）について、防ぎえた死に該当するとの意見が多数を占めた症例はなかった。

4 アンケート調査及び方向性検討会での意見

- ・重症外傷センターという確実な受入先があるとありがたい。
- ・本格運用を妨げる明らかな問題はなかった。
- ・まず第一歩を踏み出すという意味で、試行2病院が先頭に立って引っ張っていくのが良い。
- ・現在の2病院では足りない。
- ・十分な症例数が集まっておらず、有効性を示すまでに至っていない。

5 令和6年度第1回愛知県救急医療協議会での意見

- ・試行で大きな問題はなかったため、本格運用へ進み、その上で検討を続ける。
- ・2年後にアジア大会もあり体制整備は待ったなしのため、先に進めなければいけない。
- ・データをしっかりと分析し、愛知県の現状を把握することが必要。
- ・現在の2病院で愛知県内全てをカバーすることは難しい。



本格運用に向けて進むことについて賛成多数

6 今後の方向性について

これまでの試行検証結果や救急医療協議会での意見を踏まえ、本格運用に向けた準備を進めることとしてよいか。

〈主な準備項目〉

- ・ 県内救命救急センターに対する重症外傷センター指定意向調査
- ・ 指定希望病院に対する機能基準調査
- ・ 重症外傷センターへの搬送ルールの検討
- ・ 県内消防本部との調整

※傷病者を重症外傷センターに搬送するルール（「傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準（実施基準）等」）については、愛知県救急搬送対策協議会（防災安全局と保健医療局の共管）において検討を行う。